

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

令和3年度 事業所名 児童発達支援センタークムレ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している...	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
1.	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である。	31	3	・スペースは確保されている	・センター以外のスペースも活用し、活動や支援を行えるように話し合います。
2.	職員の配置数は適切である(10名以下のCに対しT3名以上)	26	8	・適切ではあるが、コロナの状況によっては正規職員の看護師に負担がかかるのではと心配。	・基準以上の職員配置はある為、ひとり一人の職員の力量を上げられるよう育成を行います。
3.	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	31	3	・トイレの出入り口が狭い。 ・構造的に変えられない部分(広さや部屋の数、トイレの設備等)があるため、適切な構造化が難しい。できる範囲で、子どもたちが動きやすいように配慮している。	・片付けや整理整頓を行い、活動できるスペースを確保します。
4.	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	31	3	・消毒をこまめに行い、感染対策に努めるようにしている。玩具についても、児の好みや活動に合わせて配置したり、種類を工夫したりしている。	・今後も気持ちよく活動できるように清掃や感染予防対策を行います。 ・気になる部分については、互いに声をかけ合い環境を作ります。
5.	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	29	5	・日々の、支援を振り返る努力はしている。クラスの職員と話し合っって目標設定などしている。	・全職員を対象とした定期的な話し合いの場を設けます。
6.	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	34	0		
7.	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	34	0		
8.	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	34	0		
9.	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	33	1	・あまり機会がないのが現状。研修に参加出来ない分、自身で学習しているが、出来れば今後はもっと研修や勉強会に参加したい。	・全職員が研修を受けられるよう、職員数の確保を行い研修を開催します。

10.	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	34	0		
11.	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	34	0		
12.	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	34	0		
13.	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	34	0		
14.	活動プログラムの立案をチームで行っている	32	2	・全職員での立案にはなっていない。	・個々の支援やクラス活動においても、日々の話し合いや定期的なクラス会議において、互いに意見を出す必要性を伝えます。
15.	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	33	1		・どの職員も専門職としての自覚や、支援者としての当事者意識を持てるような環境を作ります。
16.	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	33	1	・児同士の相性、得意なこと、不得意なこと等、児の状況に応じて活動内容を工夫するよう努めている。 ・個別の活動（お勉強など）は少ない。	・個別活動＝お勉強活動と捉えるのではなく、個々に視点を当て、個別に職員が関わり支援する機会も個別活動であるという認識合わせを行います。
17.	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	33	1	・一覧にして、分かりやすくしている。 ・打ち合わせをしっかり行い、チームワークを大切にしている。	・提示内容が職員本人へ伝わっているか、確認しながら改善を行います。
18.	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	25	9	・クラスノートなど書面を活用し、お子さんの変化などを共有している。	・職員の勤務時間を調整し共有できる方法を考えます。
19.	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	30	4		・記録は残しているが、検証や改善へつなげることが課題です。 話し合いの機会を設けず。
20.	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	34	0		
21.	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの	33	1	・毎回、児童発達支援管理責任者が参加している。	・「障害児相談支援事業所のサービス担当者会議」が何を示しているか、全職

	状況に精通した最もふさわしい者が参画している				員が学べる機会を設けます。
22.	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	33	1	・健診後のフォロー教室は、地域の保健師さんと共に実施している。 行政機関とともに見守り家庭についても状況を共有している。	・他機関と連携して支援している現状を、職員間で共有します。
23.	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	33	1	・お子さんについての、情報共有には努めている。センターでの支援には活かしている。	・連携の機会を増やしたり、共有した情報の詳細を職員間で認識合わせをおこなったりする機会を設けます。
24.	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	34	0		
25.	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	34	0		
26.	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	34	0		
27.	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	31	3	・法人内での職員研修などは実施している。 ・行政や子ども部会が主催した研修などには参加している。	・専門性を高めます。
28.	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	33	1	・法人の保育園とは、交流を行っている。しかし、コロナの為に実施できない場合もある。	
29.	(自立支援協議会) 子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	29	5	センター部会に参加している。	自立支援協議会やセンター部会などの説明を行いながら、参加状況を周知します。
30.	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	34	0	利用時に直接お話ししたり、ケアラボを通じて伝えたり、共通理解を図っている。	
31.	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	34	0	・保護者宛にペアトレ等の案内を発信し、参加しやすいように参加時の保育をするなど、保護者の対応力向上の支援を行なっている。	

32.	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	33	1	・入園時や年度変わり、変更等あれば担当者から説明している。	
33.	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	34	0	支援計画については、必ず丁寧に説明して保護者から同意を得ている。	
34.	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	34	0	・保護者からの話を出るだけ傾聴し、共感するよう努めている。ただ、まだ適切な助言ができていないこともある為、今後改善していきたいと思っている。 ・定期的な懇談を行ったり、保護者からの要望があれば時間をとったりして相談に応じている。利用時にもその場で助言や支援を行なっている。	
35.	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	32	2	・父母の会の会議等あれば、場所提供や子どもの保育、職員も参加することもある。 ・コロナ禍のため、オンラインを活用する場合もあるが、年3回以上実施している。	
36.	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	34	0		
37.	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	34	0	・ケアラボを通じて必要な情報や連絡事項を発信している。連絡体制は整っている。	
38.	個人情報の取扱いに十分注意している	34	0	・写真撮影の配慮や個人情報と思われる物が他の方に見えないように配慮している。また、他の方がいる所での個人的な話も配慮している。	
39.	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	34	0	・伝わりやすいような手段や言葉を選択し、個人に合わせた情報伝達方法をクラ	

				スの職員で、周知している。	
40.	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	30	4	・現在は、コロナ禍で出来ていない。	
41.	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	34	0	・定期的に訓練は行っている。職員や保護者への周知を行っている。	
42.	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	34	0	・避難訓練は色んな災害を想定し定期的に行っている。	
43.	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	34	0	・入園時には必ず確認している。保護者からの情報提供で子どもの状況等確認するようにしている。クラス職員間でも周知している。	
44.	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	34	0	・アレルギーのある子どもは、給食提供する前に必ず診断書を元に管理栄養士と面談し、子どもに応じた給食を提供している。	
45.	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	33	1	・事故やひやりなどの事実は共有している。 ・実際の事例を用いてKYTの研修も行っている。	
46.	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	34	0	・虐待と思われる対応はしないように子どもへの対応にも配慮している。 ・研修の機会は少ない。また短時間勤務の職員が研修を受ける機会が無く講義内容を共有している。	・短時間勤務の職員が研修を受ける機会を設けません。
47.	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	34	0	・入園時等に保護者に書面と共に説明している。	